

※事例①、②のいずれのパターンもご作成ください。

**ケース事例**

事例①

性別 女児

年齢 3歳6ヶ月 保育園3歳児（入所は1歳児の時から）

心理判定 平均下精神発達

家族構成 父、母、本児、弟（1歳6ヶ月）

家庭状況

- ・父は平日仕事で本児が起きてくる前に出勤し、本児が寝てから帰宅する。土日は休みだが家族で買い物などに出かけることはあっても公園など遊びに出かけることはあまりなく、子育てへの協力は少ない。
- ・母は本児の出産を契機に仕事を辞めたのち、現在はパート就労しており、本児と弟を保育園に預けている。
- ・母は、自身の兄が知的障害を持っているため、障害について、ある程度の知識がある。本児の自閉症スペクトラムを疑うなどの心配をしているものの、まだ3歳だからと大丈夫と思うなど、本児の成育状況が気になっている。
- ・家では弟とよく遊んでいる。

成育歴

- ・1歳2ヶ月の独歩まで順調に発育していたが、今でも転倒が多い。
- ・1歳児から保育園に入園。入園当初より視線合わないこと、身体をのけぞって泣く等のかんしゃくを起こすことが多く、指さしも少なかった。
- ・1歳半検診にて、言葉の遅れ、指差しについて指摘を受けるも経過観察となる。
- ・元々言葉数が少ないが、2歳頃の弟の出産時に保育園を長期休んだ後等、環境の変化があった時にはさらに言葉数が減ったため、保育園から場面緘默の疑いもあるとの話があったが、引き続き経過観察を行うこととした。
- ・2歳半ごろには言葉が少しずつ出始め、かんしゃくも少し落ち着いた様子であった。
- ・3歳となり、依然として周りの子と比べて言葉数が少ないとから、母と保育園との間で相談の上、児童福祉センターに相談があった。

支給量 10日

日常生活の様子

運動発達

- ・歩き始めた頃から転倒が多い。
- ・低い段差からの飛び降りは2歳6ヶ月からできるようになったが、両足は揃わな

い。

- ・しゃがむこともできず、体幹の弱さが伺える。

言語（表出・理解）

- ・日常よく使う言葉や場面と併せた言葉の理解はできている。
- ・家庭では会話もできているが、保育園では時々聞かれたことに対して「ままごと」「おはよう」「おちゃのむ」などの単語が聞かれる。
- ・全体的に言葉数が少なく、弟の出産時、保育園を長期間休み、久しぶりに登園した時には全く声を出さなくなつた。

あそび

- ・保育園では、しっかりした女の子の後についていき遊んでもらっていることが多い。
- ・家では弟とミニカーなどのおもちゃで遊んでいることが多いが、おもちゃを取られると、よく弟を叩く。
- ・幼児番組の歌や踊りなどは興味なく真似たりしようとしたが、アニメのセリフは覚えてるものまねをしている。

対人関係

- ・集団で行動することが苦手であり、集団あそびも参加しようとしたが
- ・行動の理解が遅いことによるものなのか、いつも遅れて行動するが、担任から別で伝えると、指示した行動について理解できる様子。

発達評価

新版 k 式発達検査（2020）

生活年齢 3歳6ヶ月

	発達年齢	発達指數
姿勢・運動	1歳10ヶ月	52
認知・適応	2歳3ヶ月	64
言語・社会	2歳10ヶ月	81
全領域	2歳5ヶ月	69

〈 所見 〉 平均下精神発達

発達のバランス：アンバランスが目立ち、得意不得意の差が大きい

知識の定着は良いが、意図理解の弱さがある。

対人関係：緊張が強く、非常に小さな声で話す。

注意集中：検査道具を気にするが、課題には集中している。

その他：運動面の不器用さが目立ち、細かな作業は苦手

## 事例②

性別 男児  
年齢 4歳2ヶ月 保育園4歳児（入所は8ヶ月から）  
心理判定 平均下精神発達 自閉症スペクトラム疑い  
家族構成 父、母、姉（小学4年生）、本児  
家庭状況  
成育歴

- 両親とも訪問看護の仕事をしている。母は日・祝は休みだが、父は日・祝も仕事のことが多い。
- 小学4年生の姉は本児に優しく、本児の興味のある恐竜と一緒に制作してあげるなど本児の興味のある物に合わせて一緒に遊ぶ姿がある。
- 2歳の時に吃音が出始め、3歳児検診にて吃音の指摘を受けるも、経過観察となる。
- 4歳となった頃に吃音の症状が強くなり、それと同時期頃にかんしゃくをよく起こすようになり、毎日のように30分～1時間程度泣き叫び暴れる姿が続いていた。かんしゃくが治まった後に本児を母の膝に座らせ話をすると落ち着いて聞き、話の理解ができる。保育園では興奮するとなかなか落ち着かない様子であるが、泣き叫ぶことはない。
- 家庭では、何に対してもまず「いやや」「ちがう」と言い、自分の思いを通そうと大声を出したり母を叩くこともある。常に体が動いており、ベットの上で跳んだり、食事中も途中で離席するなどの行動もみられる。児童福祉センターに相談し、発達検査を受け、現在に至る。

支給量 12日

### 日常生活の様子

運動発達

- 運動神経は良い。走るのも早く、ボール遊びも上手で保育園では他児の憧れの存在になっている。
- 常に身体は動いている。
- ラ Q やブロック、折り紙などの手先を使う遊びも好きである。
- 食事は箸を持てるが、手で食べていることが多い。

言語（表出・理解）

- 2歳から「ぼぼぼぼく…」といった吃音が出ており、4歳となったころに吃音の症状が強く出るようになった。
- 人から何か要求されると必ず「いや」「ちがう」と言う。相手から言わわれていることは理解している。

あそび

- 体を使ったり、動かして遊ぶことが大好きで、ボール遊びや追いかけっこを楽しんでいる。

対人関係

- ・日常会話やコミュニケーションはとることができるが、かんしゃくを起こした際は、時間かけて落ち着いた状態であればコミュニケーションをとることができる。
- ・不安が強いようで、初めての場所や初めてすることに対してかなりの緊張がある。そのような状況になると急に走り出したり、遊具の高い所に上ってしまったり、大声で叫んだりなどの行動をする。
- ・母としては、本児は保育園では自分の言いたいことが言えていないと感じている。

発達評価 新版 K式発達検査（2020）

生活年齢 4歳7ヶ月

	発達年齢	発達指數
姿勢・運動	3歳9ヶ月	82
認知・適応	5歳1ヶ月	111
言語・社会	4歳4ヶ月	95
全領域	4歳7ヶ月	100

〈所見〉 平均下精神発達 自閉症スペクトラム疑い

発達のバランス：知的発達の遅れはないと思われるが、失敗しそうなこと（苦手なこと）には取り組もうとしない。

対人関係：緊張と不安が強く、そういう時は気持ちが不安定になる。人から応じられても拒否する姿がある。無理強いせず、失敗しても大丈夫。やりたくなければ座って見学するなどの約束を決めておくことで安心できる人を増やす。

注意集中：自信のないことは取り組もうとしない。本児ができそうなことを個別で対応し、成功体験を増やし、自信につなげると落ち着いて取り組むことができる。

その他：母が本児の対応に振り回されている対になっている。見通しを示しながら本児ができる約束をしていくようにする。